

会 議 録

1 会議名

令和7年度第2回保倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について（公開）

【自主的な審議】

- ・健康福祉関係者の皆さんとの懇談会 振り返り（公開）

3 開催日時

令和7年6月24日（火）午後6時00分から午後6時35分

4 開催場所

上越市立保倉地区公民館 研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 神村会長、白田副会長、佐藤委員、中島委員、羽山委員、平井委員、藤田委員、丸山委員、八木委員、渡邊委員

（欠席者2名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【神村会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：中島委員、羽山委員に依頼

議題【報告事項】農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・資料「農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について」、「地域計画」に基づき説明

【神村会長】

ただいまの事務局からの説明に対し、意見、質問等はあるか。

「地域計画」の最後のページの一覧表を見ると、現状と10年後の数字が何も変わっていない。水稻耕作面積等が出ていて、現状と10年後でどこか違うのかと思って見たが、ほとんど変わりがないように見え、不思議だと思った。

【丸山主任】

農政課からの資料によると、地域の話し合いの中では、限られた時間の中で10年後の農地の将来像を想像することは難しいという声もあり、今回取りまとめた目標地図は、概ね現在の耕作者を位置づけた地図になっているということである。

【神村会長】

計画とは言うものの、課題の洗い出しということで終わっているのではないかと、個人的には感じた。

ほかに意見を求めるがなし。

議題【自主的な審議】健康福祉関係者の皆さんとの懇談会 振り返りについて、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・資料「保倉区地域協議会だより 50号」に基づき説明

【神村会長】

ただいまの説明について、意見、質問はあるか。

当日は、4グループに分かれて、協議していただいた。この地域協議会だよりの写真を見ても分かるとおおり、Aグループは青野を中心にしたグループで、岡沢と五野井の方からも入っていただいた。Bグループは、石川と下吉野、長岡新田、Cグループは、五貫野、下名柄、Dグループは、南部の小泉、下百々、長岡、駒林と分かれ、話し合いをしていただいた。詳しい記録は、事務局で整理していただいているので、こういったご意見が出たか、丁寧に見ていく必要があると思うし、先ほど話があったように、昨年1

1月の子育て世代の意見と重なる意見を、今後どうやって保倉区の課題として煮詰めていくかということも問題かと思う。

懇談会をやってみての感想でもいいが、あるか。

【中島委員】

イベントでも何でもそうだが、広報が十分ではないということを感じた。いくら良い企画をしても、知れ渡るといことが大事なので、福祉関係でもいいし、イベント情報でもいい、やはりどの課題でも広報が重要だという話が出ていた。広報は、皆さんに知ってもらおう上で重要なので、課題だと思う。

【神村会長】

回覧板や文書だけ回ってきても、強い関心を示してくださる方は、ごく一部、稀という感じなので、中島委員の話のとおり、声掛けが大切だと思う。今後、その方法、手立て、町内会長が中心になりながらどうやっていくか、具体的に話題に上げていきたいと思っている。

【白田副会長】

広報やお知らせ、そのほかに情報誌やチラシ、ポスターでも、やってもその場限りで終わってしまうので、もう少し踏み込んで巻き込んでいく必要があるのではないか。「こういう役をしてください。こうしてください、ああしてください」と具体的に示してあげないと動いてくれないのではないかと。

【神村会長】

基本的に「自分には関係ない」という意識がある感じがする。先日お集まりいただいた健康福祉関係の方々、保護者との懇談会で顔を出してくださった方々は関心の高い方々。それ以外の方々に、どうやって関心を持っていただくかということが課題ではないかと感じた。地域協議会のメンバーも、私を含めて年輩の男性しかいないが、30代、40代の男性、女性、それから50代、60代の女性の方々が入ってくるようにならないといけないと思う。それをどうしていくか。このままではいけないと思うが、若い人たちに、この現実が伝わらない。若い人たちも、そこまで意識はない。そのあたりも含めて課題だと思う。

【渡邊委員】

協議会だよりも、ほくらスポーツフェスティバル（以下、スポフェス）の記事が出ているが、大元は保倉地区体育大会のようなことをやっていた。コロナのせいもあったが、

なぜ頓挫したかという、参加者を集めきれないということで実施されていないが、今回スポフェスで地域種目をやって、参加した人は結構盛り上がっていた。体育大会といって堅苦しく決めてしまい、人を集めなければいけないという、なかなか実現しないが、今回のように、「集まっている人、ちょっと顔出してよ。ここに出てよ」といって、私も参加し、参加賞をもらったが、結構盛り上がった。それが、さきほどの、声の掛け合っただけというところにつなげ、例えば「去年こうやって面白かった」ということになれば、違う隣の人もついてきてくれて、それが大きくなっていけばいいのではないかと思う。

今年のスポフェスの地域種目には私たちも、父母、父兄も一緒になって参加したが、その人たちの子どもさんが小学校を卒業すれば、このスポフェスから少し遠のくかもしれないが、昔の同級生や幼なじみが一緒になって楽しんだことを思い出せば、子どもが小学校から卒業しても、また顔を出してくれるのではないかと思っている。

無理して人を集め、背伸びしたような企画を立てても駄目ではないかと感じた。

【神村会長】

そのとおりではないかと、聞かせていただいた。

今回こうなったきっかけが、子育て世代との懇談会からつながってきて、小学校の校長先生が、そのことを前向きに受け入れてくれて、プログラムの中に反映していただいたということも大きいし、校長先生か教頭先生が参加賞を探してこられたようだが、そういった学校とのつながり、それから子どもたちをもとにした、親や年寄りの呼びかけ、そのような世代を超えた交流が大事だと感じた。

ほかに意見を求めるがなし。

10月の保倉歩こう会についても、ご意見を聞かせてもらったが、コースは二つの設定で考えている。長い距離の6kmは少しきついと思うので、半分の3kmコースをどうしても設定しなければいけないと思う。普段歩き慣れていない人たちのためにも、場合によっては、それよりも手前で戻って来てしまう人もいるかもしれないと感じている。具合が悪くなった人への対策といったことも、この間話に出たと思う。それから、意見としては出なかったが、より多くの地域の人たちに見てもらったり、声をかけてもらったりするために、参加はしなくても、沿道で応援に出てもらえれば等、いろいろと考えている。

【藤田委員】

短い距離と長い距離については、私たちBグループからも意見が出たと思う。高齢の方も来るし、若い人も来た場合は、高齢の方は若い人にはついていけない。だからその半分ぐらいでUターンして小学校へ帰ってくるように、実行してもらえばありがたいと思う。子どもたちも、長い距離は歩けないと思うので、3kmぐらいが一番いいと思う。

【神村会長】

下吉野や上名柄、五野井の子は歩いて小学校通っているのだから、歩くことに慣れているから大丈夫だと思うが、バス通学の子どもは歩けるのか心配なところもある。

健康福祉関係者との懇談会については、もう一度振り返る時間をとるので、今日はこれで終わりにしたい。

そのほかに事務局何かあるか。

【丸山主任】

- ・次回協議会の日程について説明

【神村会長】

令和8年度の地域独自の予算は、新規提案の場合は8月末まで、継続は9月末までということで、花苗とラジオ体操は継続、歩こう会については、来年100キロマラソンがあるとどうなるか。新聞では、100キロマラソンも、岐路に立っている状況だということで、市でその結論がどのタイミングで出るのか。100キロマラソンの無い年に歩こう会を計画しているので、非常に微妙な状況である。そのあたりの情報を事務局であたっていただいて、令和8年度の保倉歩こう会はどうしたらいいか、検討したい。

- ・次回協議会：7月24日（木）午後6時から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。